



2013年2月期（2012年度）
第1四半期 決算補足資料

1 . 2013年2月期(2012年度)第1四半期
連結決算概要

2013年2月期(2012年度)第1四半期連結業績ハイライト

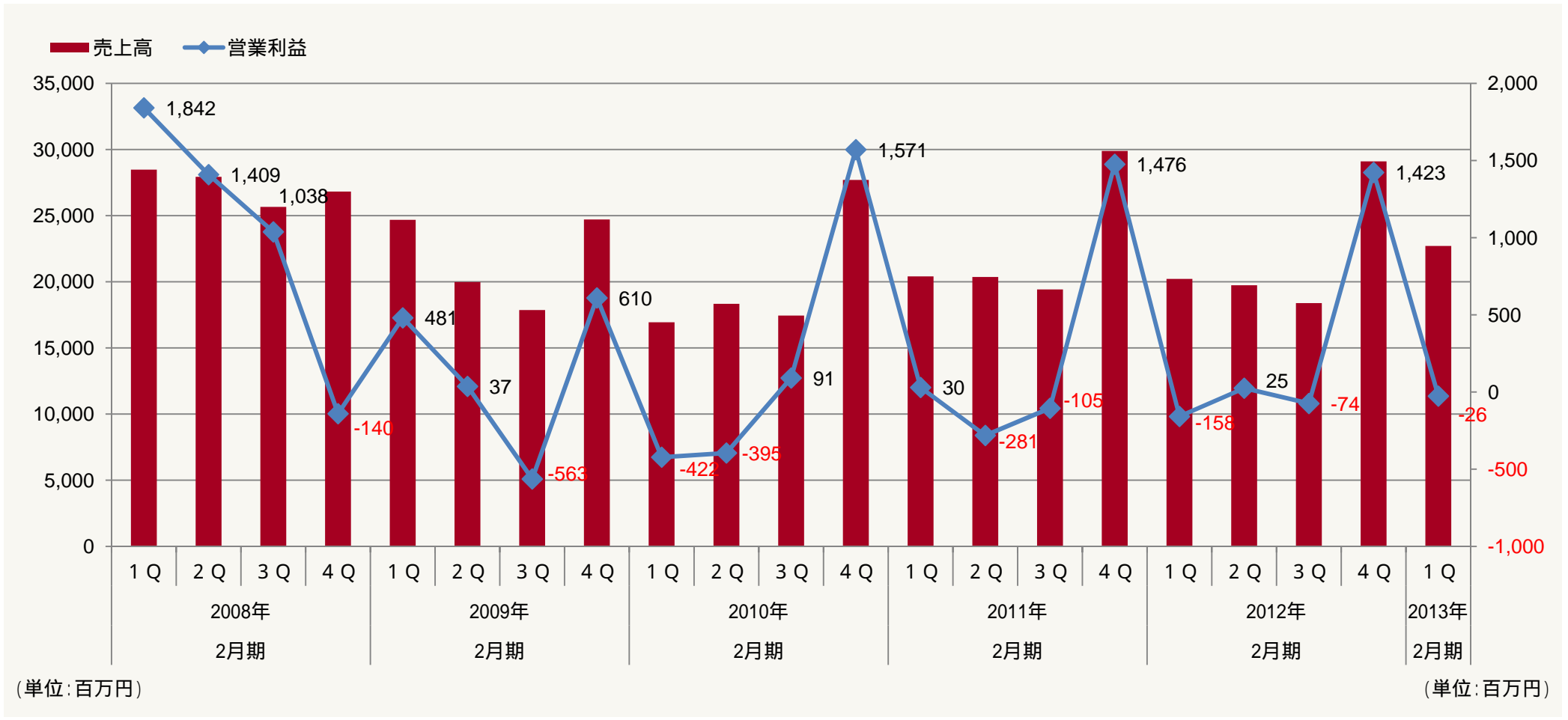
- ▶ 商業を中心とした大型複合施設の開業が相次ぎ、増収となった
- ▶ 経済環境の不透明感により価格競争が継続している状況

< 第1四半期 >	2013年2月期 (2012年度)	2012年2月期 (2011年度)	前年同期比 増減額 (率)
売上高	22,712	20,220	2,491 (12.3%)
営業利益	26	158	131 (-)
四半期純利益	163	311	148 (-)

(単位: 百万円)

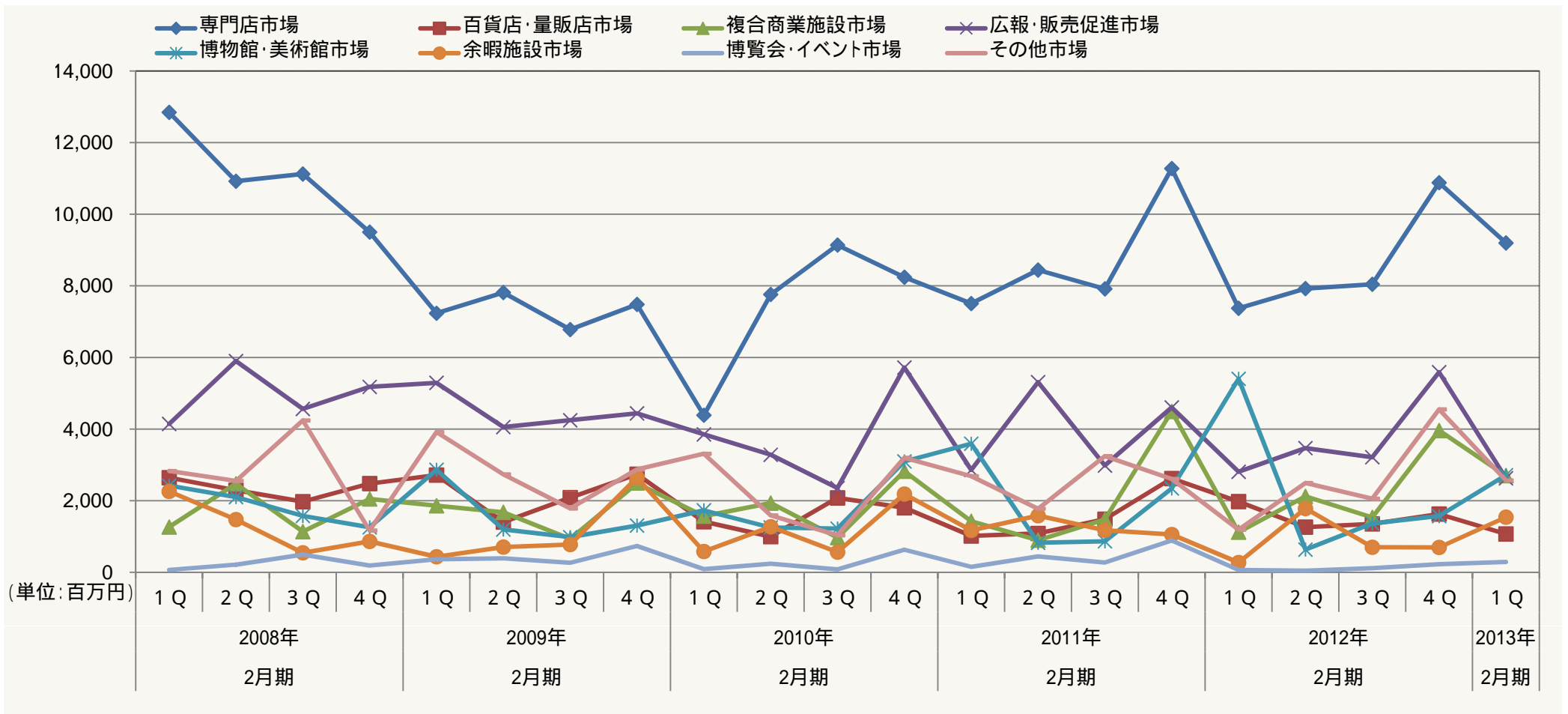
売上高・営業利益の四半期推移

当期は第1四半期に商業施設分野などにおいて大きな売上計上があったが昨年同様、下期型の業績推移となる




市場分野別の四半期推移

- ▶ 商業施設、ショールーム、展示会イベントのオープニングは、春・秋に集中する傾向がある
 一方、オフィスや金融店舗、博物館の運営管理業務など季節に左右されない仕事が増加している
- ▶ 国内経済環境を反映して、家電・エネルギー関連の広報・販売促進業務が縮小傾向



(注)不動産事業と飲食・物販事業はその他市場に含んで掲載しています。4

市場分野別の状況

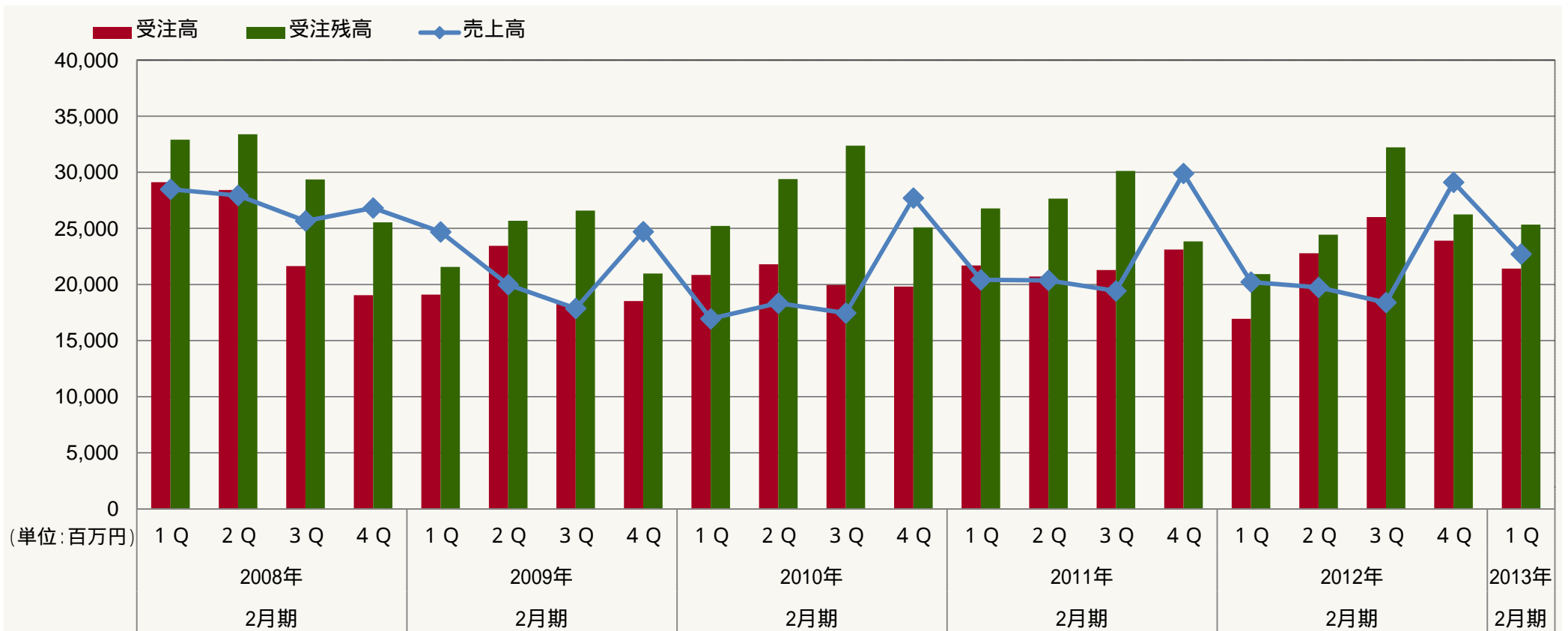
 大型複合施設の開業により、専門店市場、複合商業施設市場、その他市場が大幅に伸びた
 博物館市場は、前年同期に大型案件の完工があった、余暇施設市場ではホテルや水族館などの内装・展示業務が増加した

< 第1四半期 >	2012年2月期		2013年2月期		売上構成率		ポイント
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	前期	当期	
専門店市場	7,374	1.8%	9,198	24.7%	36.5%	40.5%	春に開業した大型複合施設などに出店するアパレルブランドの店舗を多数手掛けた
百貨店・量販店市場	1,976	94.2%	1,072	45.7%	9.8%	4.7%	渋谷における百貨店の新装を手掛けたが、春の改装需要が前年同期に比べ減少
複合商業施設市場	1,122	21.3%	2,699	140.4%	5.5%	11.9%	都内における大型複合施設の開業に加え、高速道路のサービスエリアの環境演出などの需要が増加
広報・販売促進市場	2,809	1.8%	2,629	6.4%	13.9%	11.6%	家電、エネルギー関連のショールームが縮小したことが要因 自動車、スポーツ関連の展示会・イベントを手掛けた
博物館・美術館市場	5,405	50.5%	2,714	49.8%	26.7%	12.0%	前年同期に30億円超の大型案件が完工 当期から新たな施設の運営管理業務をスタートさせている
余暇施設市場	275	76.5%	1,541	459.1%	1.4%	6.8%	ホテル、アミューズメント、水族館、ボーリング場、託児施設など幅広い分野を手掛けた
博覧会・イベント市場	65	56.8%	290	342.3%	0.3%	1.3%	姫路城の公開施設運営のほか、農林水産省のイベントを手掛けた
その他市場	824	63.7%	2,184	164.8%	4.1%	9.6%	企業のオフィス、学校、プライダル施設などに加え、企業の株主総会の展示、環境演出を手掛けた
ディスプレイ事業 小計	19,854	0.7%	22,329	12.5%	98.2%	98.3%	
不動産事業	120	2.2%	113	5.8%	0.6%	0.5%	所有する商業・オフィスビルの賃料収入
飲食・物販事業	246	16.2%	270	9.7%	1.2%	1.2%	ミュージアムショップ、物販・飲食店舗の運営 震災影響なくなり増収 今年より新たな店舗を出店する
合計	20,220	0.9%	22,712	12.3%	100.0%	100.0%	

(単位: 百万円)

受注高・受注残高の四半期推移

- 受注残高は前年同期に比べ高い水準、第2四半期にも大型複合施設の開業に伴う案件が含まれていることも要因
- 近年は顧客の投資判断に慎重さが増し納期が短期化するとともに、期中受注・売上計上の傾向が強まっている



市場分野別の受注高・受注残高

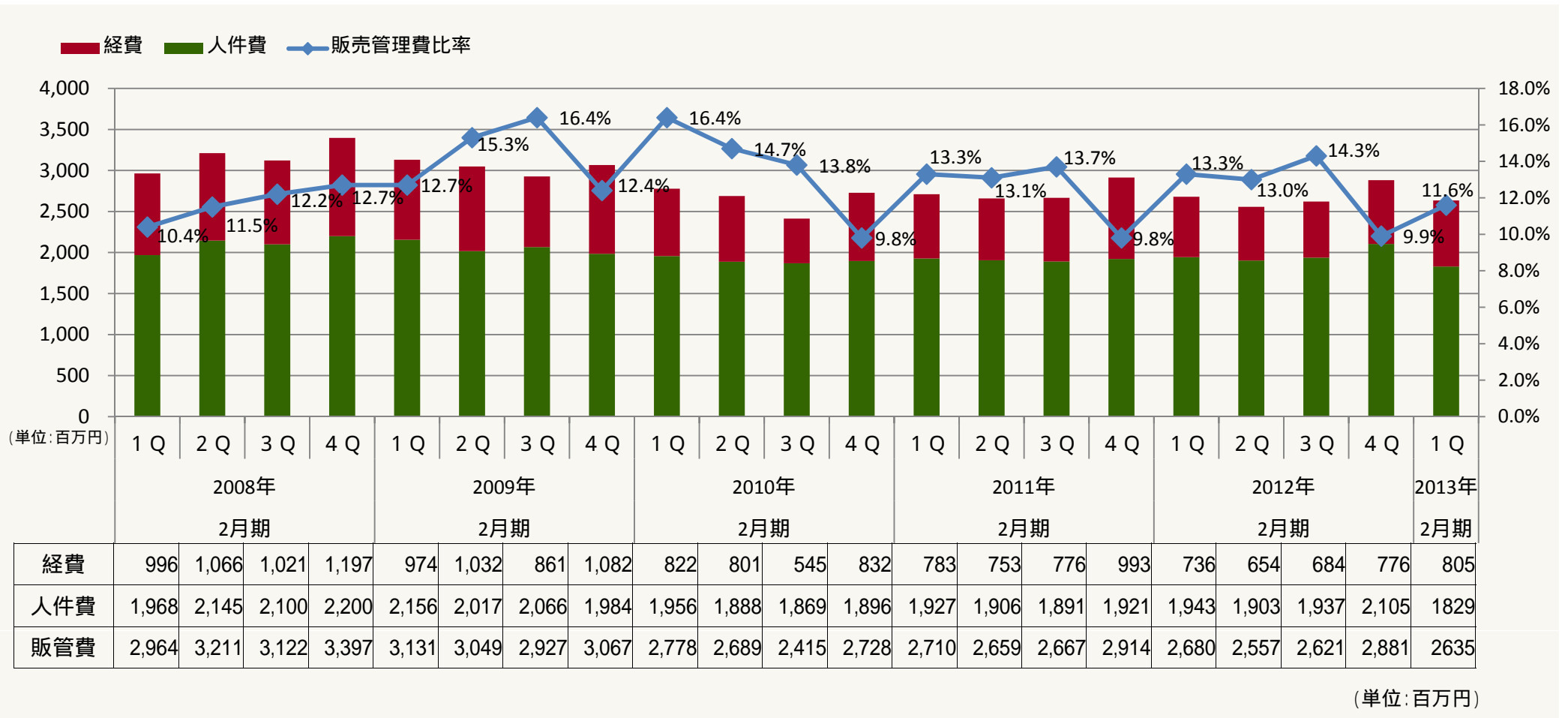
- 受注高は、大型複合施設に出店するテナント工事の需要により専門店市場が増加、前年同期に震災の影響のあった広報・販売促進市場の受注高が通常ベースに戻ったことも増加要因
- 受注残高はアパレル、金融店舗に加え、春の大型複合施設開業に伴う需要の第2四半期売上計上分を含む専門店市場が増加、住設関連のショールームの需要が伸びてきた広報・販売促進市場も増加した、複合商業施設、余暇施設市場は大型案件の完工により減少

< 第1四半期 >	2012年2月期		2013年2月期		受注高 前年同期比 増減額(率)		受注残高 前年同期比 増減額(率)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高				
専門店市場	7,131	4,503	8,577	7,057	1,446	20.3%	2,553	56.7%
百貨店・量販店市場	1,993	845	2,083	1,750	89	4.5%	905	107.1%
複合商業施設市場	1,182	5,313	1,438	2,175	255	21.6%	3,137	59.1%
広報・販売促進市場	2,321	2,848	4,507	5,418	2,185	94.1%	2,569	90.2%
博物館・美術館市場	1,304	2,299	2,148	3,088	843	64.7%	789	34.3%
余暇施設市場	1,117	1,881	821	1,270	296	26.5%	611	32.5%
博覧会・イベント市場	181	262	384	468	203	111.7%	205	78.3%
その他市場	1,705	2,968	1,458	4,105	246	14.5%	1,136	38.3%
合計	16,939	20,923	21,419	25,334	4,480	26.5%	4,411	21.1%

(単位:百万円)

販売管理費の四半期推移

- ➡ 経費の増加は、120周年記念広告出稿などによるものであるが、予算比では120百万円超の減少で推移している
- ➡ 賞与引当金の減少により人件費が減少、販売管理費の減少と売上の増加により販売管理費比率は、前年同期に比べ1.7%減少し11.6%となった



連結損益計算書

< 第1四半期 >	2012年2月期		2013年2月期		ポイント
	2012年2月期	2013年2月期	前年同期比	増減率	
売上高	20,220	22,712	2,491	12.3%	前年同期に大型案件のあった博物館市場が減少したが、大型複合施設の開業に伴い専門店、複合商業施設、余暇施設、その他市場の売上高が大幅に増加
売上総利益(率)	2,521(12.5%)	2,608(11.5%)	87	3.5%(1.0%)	受注競争の激化に加え案件集中により工程が厳しさを増したことで原価が上昇する結果となった
販売管理費(率)	2,680(13.3%)	2,635(11.6%)	44	1.7%(1.7%)	120周年記念に伴う費用が計上されたが、人件費を抑制し、販売管理費は前年同期に比べ減少
営業利益(率)	158(-)	26(-)	131	-	売上高の増加により前年同期に比べ赤字幅が縮小
経常利益(率)	157(-)	3(-)	161	-	
特別利益	262	-	262	-	前年同期は保険金受取などによるもの
特別損失	433	61	372	85.8%	3銘柄につき投資有価証券評価損を計上 前年同期は震災関連費用、前会長退職慰労金・社葬費用、過年度給料手当などによるもの
当期純利益(率)	311(-)	163(-)	148	-	

(単位:百万円)

連結貸借対照表

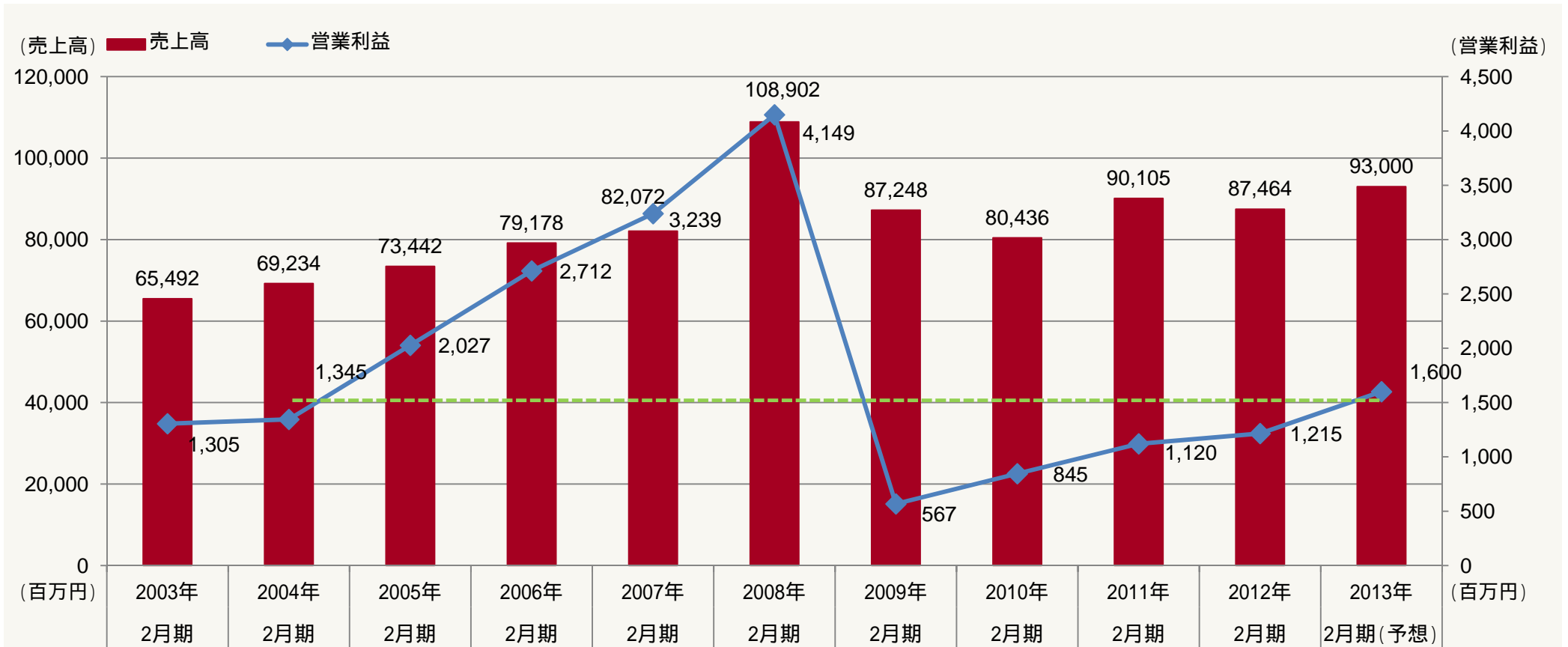
		2012年2月期 期末期	2013年2月期 第1四半期	前期末比 増減		ポイント
資 産	流動資産	31,398	30,843	555	1.8%	春に開業が集中した大型複合施設の受注増加によるたな卸資産の増加(13.0億円)、前期末の売上債権の回収による現預金の増加(37.8億円)があったものの、受取手形及び売掛金が大幅に減少(53.6億円)した
	固定資産	22,946	22,828	117	0.5%	固定資産の減少は、投資有価証券の取得などがあったが、大型の設備投資はなく、減価償却の実施(1.0億円)、投資有価証券の評価損などによるもの
	資産合計	54,344	53,671	673	1.2%	
負 債 ・ 純 資 産	流動負債	23,601	23,504	96	0.4%	流動負債の減少は前受金、短期借入金などが増加したが、期末月の仕入の減少による支払手形及び買掛金が大幅に減少したことによるもの
	固定負債	5,860	5,868	8	0.1%	固定負債は、リース債務の増加などにより微増
	負債合計	29,461	29,373	88	0.3%	
	純資産	24,883	24,298	584	2.4%	純資産は、配当金の支払いと四半期純損失の計上により利益剰余金が減少
	負債純資産合計	54,344	53,671	673	1.2%	

(単位:百万円)

2 . 2013年2月期(2012年度) 業績予想

通期業績の推移

- 業績はリーマンショック以降の下降局面から回復基調、前期まで3期連続の増益となった
- 2012年度の業績(営業利益)は2003年度の水準、今後は利益率の向上を目指す



(注) 実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

2013年2月期(2012年度) 連結業績予想

➡ 国際財務報告基準(IFRS)への対応のため決算期の変更を予定している(2月15日 2月末日へ)

➡ 当期業績目標 = 中期経営計画の目標数値 - 決算期変更影響額

	2012年2月期(実績)	2013年2月期(予想)
売上高	87,464	93,000
営業利益	1,215	1,600
経常利益	1,325	1,700
当期純利益	604	940
一株当り配当金	8円	8円
配当性向	73.9%	47.5%

(単位:百万円)

(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。